

登録コード	UAB15600	開講年度	2026				
授業題目	心理学AR I					担当教員	今井 章 他
						副担当	高瀬 弘樹・岡本 卓也・松本 昇・白井 真理子
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限		
				授業形態	演習		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	人間と社会を中心とした多種多様な側面を持つ人間の心理に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する心理学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を持てるようになる。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	人間の心理に関わる言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行うことができるようになる。
	【人間文化学】人間文化学に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を有する。					⇔	人間の心理に関わる地域中核人材・研究者・教育者として備わっているべき高い倫理観を持つことができるようになる。
(2)授業の概要	社会心理学における研究がいかにして行われるか、その全体的な流れを学びながら、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査実施のためのシナリオや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。受講生は、本授業を通して実用的な研究活動の過程を学ぶことによって、様々な社会的な疑問に対して、“実証”してゆくための実際の手順を主体的に運営する力を涵養できる。						
(3)授業計画	1.ガイダンス：社会心理学における研究とは 2.問題の発見(1)：自らの問題意識を整理し発表する 3.問題の発見(2)：ディスカッションによって問題を深める 4.先行研究の探索と研究テーマの選定(1)：先行研究の探索の仕方を学ぶ 5.先行研究の探索と研究テーマの選定(2)：先行研究を探索し、問題を相対化する 6.仮説の設定(1)：問題をリサーチ・クエスチョンとして表現する 7.仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる 8.仮説の設定(3)：ディスカッションによって、仮説を確定する 9.データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(1)：データ収集の方法を学ぶ（実験法） 10.データ収集方法と具体的な実施手続きの決定(2)：データ収集の方法を学ぶ（調査法） 11.データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定(4)：ディスカッションによって、データ収集と解析の方法を確定する 12.実験・調査の準備(1)：仮説検討に適した実験シナリオ・質問紙を構成する 13.実験・調査の準備(2)：ディスカッションによって、実験シナリオ・質問紙を確定する 14.実験・調査の準備(3)：予備実験・調査の実施とデータの統計解析をする 15.実験・調査の準備(4)：予備実験・調査結果を基に、実験シナリオ・質問紙を改善する 授業終了後に課される、1～15までを通して練られた「研究計画書」にて評価を実施する。 期末試験の有無 無						
(4)成績評価の方法	授業のねらいで示したような社会心理学に関する研究のノウハウが身についたかどうかについて、発表および討論への積極的参加（50%）と研究計画書の内容（50%）により評価する。						
(5)成績評価の基準	最終レポートについては、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1.問題・目的で、当該レポートで何を問題・目的とするのが明確に記述されている 2.方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく記述されている 3.結果が、実験・調査の結果について事実即して忠実に記述されている 4.考察で、得られた結果が論理的に解釈され、結論に至るまでの過程が記述されている 5.引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.レポート全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 1～6までの全てを満たしていれば「卓越している」、5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」と評価する。						
(6)事前事後学習の内容	自分が取り組む研究テーマについて、CiNiiやPsychINFOなどのデータベースを用いて、広範に検索し、先行研究を見つける。その際、キーワードの設定の仕方を工夫するなどして、繰り返し検索し、自分の関心により近い論文を見つけることができるスキルを身につける。 そのようにして見つけた論文を十分に読み、さらに、その論文に引用されている文献も芋づる式に読み、先行研究に関する知識を十分に蓄える。						
(7)履修上の注意	本講義で取り扱うトピックは、ニュースやその他のメディアでも取り上げられるものが多い。日常的にそれらの情報に注意を向け、関連する事例については、詳細な情報を収集し、授業で得た知識や参考書を元に論考すること。						
(8)質問,相談への対応	授業での疑問は授業内で解決できるよう、積極的に発言する。その他の場合は、いずれかの担当教員(imaiakr[at]shinshu-u.ac.jpなど)にアポイントメントを取った上で、個別に相談する。						
【教科書】	特に指定しない						

【参考書】	高野陽太郎・岡隆（編），心理学研究法 補訂版，978-4641220867，有斐閣，2017 三浦麻子，なるほど！心理学研究法（心理学ベーシック 第 1巻），978-4762829666，北大路書房，2017 大竹恵子（著）・三浦麻子（監修），なるほど！心理学調査法（心理学ベーシック 第 3巻）， 978-4762829901，北大路書房，2017 清水裕士・莊島宏二郎，社会心理学のための統計学—心理尺度の構成と分析，978-4414301892，誠信書 房，2017
-------	---